

認知症介護指導者を対象とした新型コロナウイルス感染症対策にかかわる 緊急アンケートの集計結果について

標記につきまして、以下のようにご報告いたします。

1. 本調査の目的

新型コロナウイルス対策等に関する課題や工夫等の情報を集め、この未曾有の緊急時における「認知症ケア」と「人材育成」の在り方について整理し、各所に提言することを目的とした。

3センターのホームページである Dcnet に結果を掲載すると共に、介護事業所等向けのリーフレット等の作成も視野に入れるものとする。

2. 対象と方法

- 1) 対象：全国の認知症介護指導者 2,410 名
(令和元年度末までに認知症介護指導者養成研修を修了した者)
- 2) 方法：インターネット上でのアンケートとし、アンケートの説明と依頼は郵送で行った
- 3) 調査期間：2020 年 5 月 19 日 - 29 日

3. 集計日

令和2年6月1日（月）

4. 回収数及び回収率

767 名（回収率：31.8%）

5. 質問内容

- 1) 属性： 所属及び担当する主な事業所形態
- 2) Q1 事業所等の対策の現状
- 3) Q2 - 1 外出・訪問自粛等の認知症の進行への影響
- 4) Q2 - 2 以前と比べて認知症の人にあらわれていると思われる影響
- 5) Q2 - 3 認知症の人や家族への対応での工夫
- 6) Q2 - 4 以前と比べて家族の様子の変化
- 7) Q3 職場内における人材育成への支障
- 8) Q4 以前に比べて職場内研修への影響
- 9) Q5 運営する認知症カフェへの影響
- 10) Q6 認知症サポーター養成講座などへの影響
- 11) Q7 認知症に関する地域活動への支障
- 12) Q8 貴施設事業所の運営法人内で利用者またはスタッフの新型コロナウイルス感染事例について

6. 集計結果

Q2 - 3、2 - 4、3、4、5、7 のその他の自由記述に関して、類似した内容ごとにカテゴリー分類を行った。なお、記述内容に自治体名や個人が特定できる可能性がある情報が記入されているものについては、すべて削除した。

1)所属及び担当する主な事業所形態について

表 1 回答者の所属事業所

(n=767)

事業所形態	人数	%
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	204	26.6%
グループホーム	141	18.4%
デイサービス	78	10.2%
介護老人保健施設	70	9.1%
法人等全体の管理運営	56	7.3%
小規模多機能	49	6.4%
その他*	46	6.0%
居宅介護支援事業所	44	5.7%
地域包括・行政	31	4.0%
有料老人ホーム	18	2.3%
訪問介護	13	1.7%
デイケア	7	0.9%
ショートステイ	5	0.7%
訪問看護	3	0.4%
その他訪問サービス	2	0.3%

*その他事業所内訳

ケアハウス、看護小規模多機能、法人内の教育機関、法人教育研修グループ、病院、法人本部、認知症対応型通所介護、地域密着型特定施設、サービス付き高齢者向け住宅、認知症相談支援、主婦、介護人材の確保と育、研修担当、介護医療院、生活困窮者自立相談支援事業所、災害復興ボランティアチーム、社会福祉士事務所、認知症疾患医療センター、ケアハウス、認知症コールセンター、研修事業、在宅医療・介護連携支援センター、福祉用具貸与事業所

2) Q1:事業所等の対策の現状について

表 2 事業所などの対策の現状(複数回答)

(n=767)

	人数	%
イベントやアクティビティの中止や制限をしている	667	87.0%
家族等の面会の方法や場所の制限や変更をしている	662	86.3%
マスク・消毒液などの衛生用品等の調達コストが上昇した	617	80.4%
利用者の散歩や外出方法などの判断が困難となった	439	57.2%
新型コロナウイルス感染症対策などの規定や委員会を設置し、開催した	406	52.9%
関係団体や関連施設事業所との連携を平時より密に行っている	339	44.2%
医療機関受信制限などがある	324	42.2%
サービスを休止・制限している	181	23.6%
人員が不足している	135	17.6%
その他	35	4.6%
特になし	4	0.5%

3) Q2-1 外出・訪問自粛等の認知症の進行への影響について

(n=767)

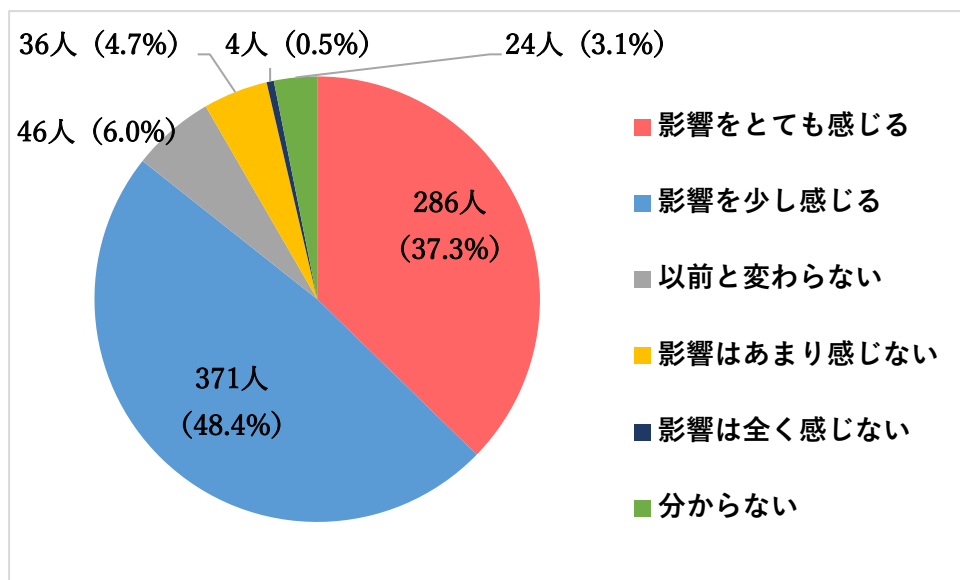


図 1 外出・訪問自粛が認知症の進行に及ぼす影響

4) Q2-2 以前と比べて認知症の人にあらわれていると思われる影響について

表 3 以前と比べて認知症の人にあらわれていると思われる影響(複数回答) (n=767)

	人数	%
家族と会いたがっている	377	49.2%
イライラしている (易怒性の亢進)	305	39.8%
外出したいという要望 (外に出ようとする頻度)	230	30.0%
不穏になる	221	28.8%
健康状態の低下 (ADL の低下)	213	27.8%
自宅に帰りたいという訴えが増えた	153	19.9%
その他	105	13.7%
食欲の低下	102	13.3%
本人がデイサービスの利用を嫌がるようになった	58	7.6%
昼夜逆転	58	7.6%
本人が医療機関の受診を嫌がるようになった	29	3.8%
本人がショートステイの利用を嫌がるようになった	20	2.6%
本人が訪問サービスの利用を嫌がるようになった	15	2.0%

5) Q2-3 認知症の人や家族への対応での工夫について

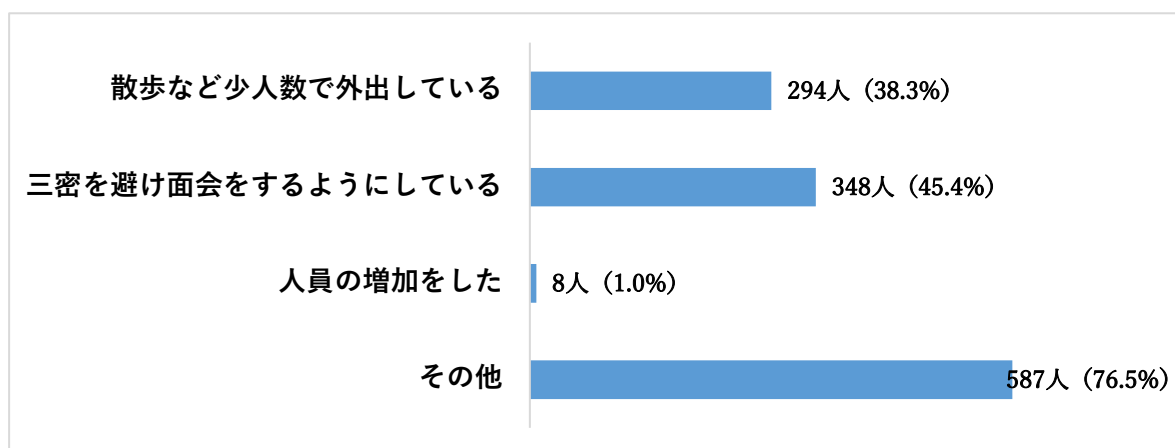


図2 認知症の人や家族への対応と工夫について(複数回答)

表4 その他の回答例

認知症の人や家族への対応での工夫（記入例一覧）	
オンラインによる 面会実施	スマホを使用しLINEビデオにて面会
	zoomによる面会実施
	タブレットを使用してビデオ通話してもらっている
	テレビ電話を使用した面会を行っている
	スマホ、パソコンで面会
	iPadでのテレビ面会。テレビ電話を活用しての面会など。
	マイクロソフトオフィススイートを導入
	施設でiPadを使用し、家族のスマートフォンと連動させ、ビデオ通話を行った
	スカイプで、玄関と居室を繋ぎ、職員が付き添って面会してもらっている。家族様は、自宅からでも可能
	グーグルデュオ等で情報交換や面談をしてもらっている
間接的な面会実施	面会制限を実施している中で動画を利用し交流、互いを確認できるようにしている。
	透明なビニールシートで遮断
	ドライブスルー面会を行った
	窓越しでの面会
	面会を強く希望する家族には、窓越しに顔を見てもらう。
	ガラス越しに電話で会話しながらの面会
	建物に入らず窓越しに面会する等
	面会を強く希望する家族には、窓越しに顔を見てもらう。
	ガラス越しに施設外と施設中にスピーカーを置きマイク使って家族と面会して話して頂いている
	自動ドア越しに携帯を使用して面会
	窓ガラス越しに携帯電話を使い会話していただく

	玄関のガラス戸越しの面会
面会できる環境や時間の設定	ベランダから顔を出していただき、一階にいる面会者とお話ししていただいている。
	施設玄関を使わず、入居者に最もショートカットで逢える方法でお願いしていた。
	施設の玄関、または玄関の外で面会してもらっている。
	窓を開け換気状態の相談室で面会をしてもらう
	生活空間では面会せずに三密にならない空間を確保して面会。
	オンライン面会が無効な方には、換気や消毒を徹底した場所での面会を設けたり、個別の支援を増やしている。
	どうしても家族に会いたいと泣かれる方のみ家族に連絡し、来所していただくが、庭など屋外で短時間の面会をしていただいた。
	職員が付き添い、家族、入居者ともマスク着用、離れて玄関先で5分程度の面会
	病棟以外のフロアにて距離をとって、いただき最小限で15分以内とさせていただいていた。
	テラスなどで短時間面会させてもらうよう促している
	玄関脇に面会席を作り、三密を避ける工夫をした。(玄関は開けたままにしている)
	屋根のある屋外で面会できるようにしている(検温、体調チェック、マスク着用、時間制限あり)
	面会を玄関外でももらい密な状況を作らないようにした。
	看取り診断のある方の家族は、健康状態と過去二週間の行動歴確認のうえ15分を目安にした面会としている
電話・手紙などによる情報提供	特養の場合は、週に1回の電話連絡、(本人がでられる方もいる)と写真入りの手紙を月2回送付
	認知症の人を施設内の散歩に誘い、写真撮影し、写真と多職種からの直筆メッセージを、全てのご家族へ郵送した。写真は認知症の人の居室に飾り、ご家族からのお礼の返事の手紙は、本人様や各部署の職員へ配布し、モチベーションの維持に活用
	ホームページに個人の写真を載せている 掲載可能者のみ
	お手紙を書いて頂いたり、職員から近況報告を行っている。
	日頃の生活の様子を写した写真入りの家族への手紙を送付する。
	電話やメールなどで相談・報告・連絡をこまめに行っている
	家族へSNSや手紙等で普段以上に生活状況を伝えている。
	面会制限に対しての協力の労いと併せて、日常の様子の手紙(写真つき)を全家庭に郵送した。
感染症に対する情報提供	BCPの策定をし、説明
	病院のホームページから新型コロナウイルス関係の資料をダウンロードして配布
感染症対策の徹底	あまり大げさにならないように、しかし接する際の者間距離を少しとったりマスクや消毒、換気などをすることで三密をさりげなくさけるような配慮をしています。
	訪問前後の手指消毒の徹底とマスク着用
	家族に対しては、検温・体調管理報告、3密をさける対応のご協力をしている。

	家族へは書面での通知を行い、感染拡大防止について理解を求めている。利用者也コロナについて話す機会を増やして、マスク着用など理解を進める様にしている
	通い時の検温や密にならない様、食事などの工夫、電話等の連絡強化を行っている
	3密の必要性についてイラストで各テーブルに掲示した ご家族には、県外への外出を控えるお願い
	面会前、本人、家族に電話でマスクの着用、検温を依頼する。体調確認。
	体温測定、健康チェック、手指消毒、マスク着用
	家族が施設に来所する場合は、職員のみ対応し、検温や酸素飽和度など測定
	職員はフェイスシールド、使い捨て手袋を着用での対応
	次亜塩素酸水の加湿器を設置
	1日3回の手すりや物品消毒。1日一回室内も手動の噴霧器を使用した消毒を実施している
	面会は気沫感染しないようにビニールでカバーしています。
	万が一感染が発生した場合の対応についてのシミュレーション
	家族向けの新型コロナウイルス感染対策についてのマニュアルを作成。それに基づいて対応の工夫を行なっています。
本人・家族への ストレス マネジメント	スタッフへ家族支援のマニュアルを作成し、メンタルヘルスを工夫した
	ご家族様へ不安にならないように助言、アドバイスを今まで以上に、行った。マスクミで(テレビ、ラジオ) 余計、不安になっているため、安心、安全を送迎時、担当者会議等で徹底して伝えている。
	認知症カフェが中止になったことも一因となり参加していた方のストレスが強くなっているため認知症カフェの予定日に電話して対話しています
	一緒に居る時間を増やしたり、いつも以上に笑ったりできるような話しをした
	自ら連絡を取り家族のストレスや困りごとの相談を聞いて回り、アンケートを実施した。
	電話にて悩みやストレスを発散してもらっている
ケアの工夫	食堂を2回転させ少数で食事を提供している
	足湯サービスを、1箇所で行っていたが、週替わりで場所を変えて移動や接触を減らした
	各グループを更に小グループに別け、カフェや手作りおやつ等、目の前で調理を行い、食での楽しみを増やしている
	配膳や食事のとり方について3密の緩和
	天気の良い日、玄関先に椅子を出し日向ぼっこ。家庭菜園を始めた
	施設内の敷地が広いので、庭に出て季節の花や畑などに少人数で出られるようにしている
	受診は家族のみで、薬を持参されている
	入浴日以外の手浴、足浴
利用者の気分転換	体操クラブの活用 DVDによる映画上映

	普段行っているボランティアやイベントができないため、またテレビもコロナばかりで不安感が増す内容ばかりなので、ドリフや昔の映画などの DVD 鑑賞を行い、ちょっとした気分転換を目的として行っている 屋外(施設内)で喫茶店を開き、非日常的な時間や季節を味わっていただいた
外出時の工夫	外出レクは室内ではなく屋外やドライブなどで対応している 外出は3密にならないコースを選択しマスク着用する。帰設後も手洗いうがい行う マスクをして人のいない場所への散歩 マスク、消毒体制を整え、小規模で散歩 人混みを避けて外出 買い物同行は本人が強く望むときに限り、代理購入にした 散歩時にはマスク着用していただく。本人・家族が強く望む場合は短時間で一緒に散歩していただいた マスクを手作りして、着用。少人数で散歩に出かける 外気浴を兼ねて少人数で散歩 車中での外出を定期的に行っている 毎日の送迎時間にいつものルートを外れて遠回りをして、花をながめたりしながら、ご利用者にドライブ気分を味わってもらいストレス解消の一助にした
ケア人員 確保の工夫	事業を休止している部署の職員に対して業務を準備し、本人に就労、有休取得、欠勤等を選択してもらい、就労する場合は、午前、午後と業務内容と時間を定め、間接業務に携わってもらうなどの一時的な人員増を図った 近隣の住民のパート職員2名を追加した 派遣社員を入れた 通所介護に自費宿泊サービスを行っているが、17時から21時まで、夕方から夕食、就寝ケアに要する通常職員2名体制を3名体制にシフト調整で増員している。 休日出勤により、配置人数の増員 他の産業が事業縮小、回りの通所サービスの閉鎖に伴うことにより人員確保できた 感染や濃厚接触が疑われた際に、事業活動が止まらないようにシフトのグルーピング分けを行ったり、新規入居者への対応として感染症を持ち込まない、拡げない対応として、2週間の居室対応とすることから、専属スタッフを1名配置した
地域との繋がり	在宅で暮らす認知症に人の進行が早まっていると判断し、自宅訪問の依頼や、近隣への協力要請依頼を行った 短時間での安否確認やセンターでの個別の相談対応などを行っている
その他の対応・対策	ボランティア、外出、緊急以外他科受診中止、マスク、手洗い励行、入所者マスク、マスク不足しているため、一週間で7枚、消毒液不足、処置用、食事用のディスポ手袋が不足しているため、食事用はタオルで代替している

6) Q2-4 以前と比べて家族の様子の変化

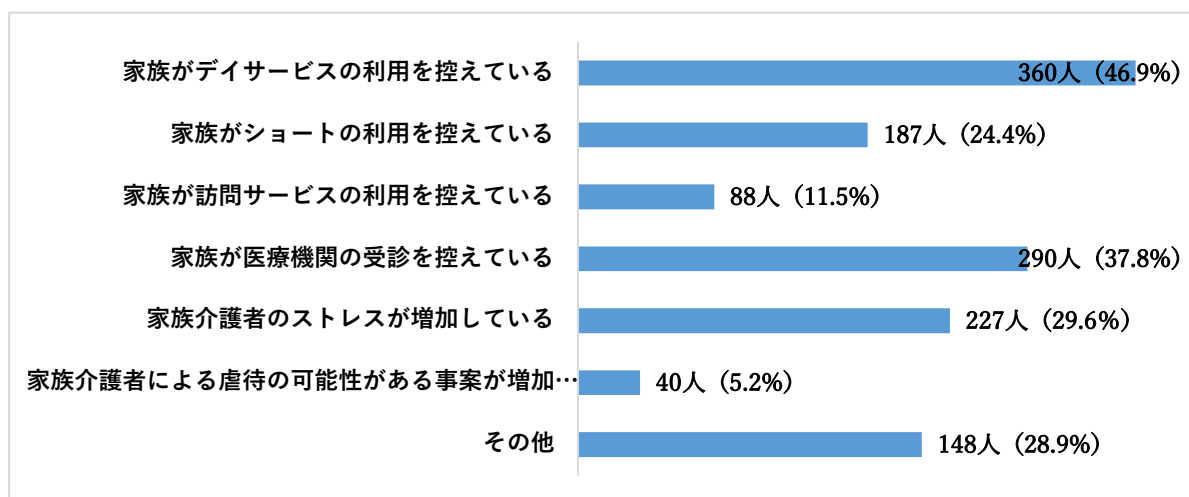


図3 以前と比べて家族の様子の変化(複数回答)

表5 その他の回答例

以前と比べて家族の様子の変化（記入例一覧）	
面会できない 不満やストレス	面会できないことで、心配しているように感じる
	家族も面会ができず、寂しい思いをされている
	ご利用者と自由に面会ができないことへの不満や不安を、職員に電話で訴えられた方がいた
	窓越しの対面で、ストレスが増加している
	長期間の面会制限により、家族のストレスも増加している傾向あり
介護職員への労い	この状況下で励ましの声をいただき、共に乗り越えるマインドの方もいれば、施設事業所職員に心ない言葉をかける家族も多々いる。
	スタッフに対し、労いや感謝の言葉をかけられるご家族が増えた
家族自身のメンタルヘルスケア	家族のメンタルケアの相談が増えている
入居生活に必要な支援が受けられない	必要な物や、立て替え金の支払いなどが、行なってもらえない。
介護負担の増大	市内のほとんどの在宅介護サービスが自粛しているので、介護負担が増加していると感じる
	通所系のサービスの休止により、代替えのサービスが利用できず、外出の機会がなくなり、介護者の負担が大きくなりストレスも増えている。
	サービス利用を控えている分家族に負担がかかり、家族がストレスを感じている。
ともにいる時間の増加によるストレス	自宅で一日中認知症の夫と一緒にいる事が辛くなって、介護者の具合が悪くなった
	元々利用者の在宅を嫌がっていた家族が接する時間が増えてますます嫌がっている
	ご本人との関係が悪くなり、口論が増えたと言われた

	待てない。言葉が荒い。声が大きい。
	デイ等に外出する機会が少なくなり、本人に対して口調が強くなってしまっている
虐待の増加	法人委託の包括支援センター職員からここ 1-2 か月間で虐待対応が増加傾向にあると報告を受けている
	虐待者がリモートワークや休職になり口論暴言での虐待通報が増加している
必要な医療が 受けられない	認知症をベースに妄想状態あり、病院受診予約をしたが取消し、受診しない
	オンライン診療となり本人の状況を的確に確認しないまま処方がされている
感染リスクと介護 負担増加との葛藤	家族介護者のストレスが増しているが、訪問することにも拒否がある場合も
	通所に通わせたいが不安。いつまで見られるのか不安
	一緒に居るとイライラする。でも利用をさせるのは怖い等、家族も悩んでいる様子
在宅生活継続の 中断	サービス利用を控えた事で家族が疲弊したのか、在宅を諦め入居を判断した
	家族のストレス増加で、ショート利用

7) Q3 職場内における人材育成への支障について

図4 職場内での人材育成への支障

(n=767)

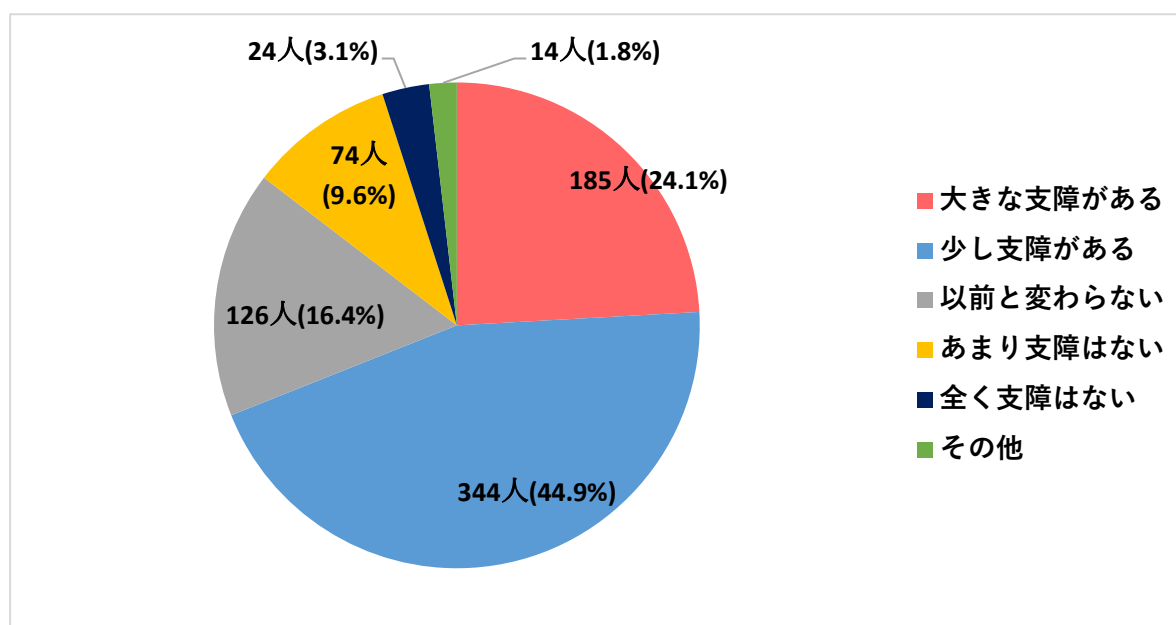


表6 その他の回答例

職場内での人材育成への支障（記入例一覧）	
困難な研修開催	法人全体で実施している段階的な集合研修も中止や延期となっている
	大人数での研修ができない為、大いに支障がある
	準備した学会や研修などが中止になった
	現在では、人材育成の前に感染予防という感じ
ポジティブな面	意外と人材育成の機会にもなっている
	育成を強化する時間が増えた
	施設の感染対策(マニュアルや建物構造及び設備)への理解が深まった
	危機管理や意識が高くなった
	後輩の勉強会は ZOOM 開催に切り替えている

8) Q4 以前に比べて職場内研修への影響について

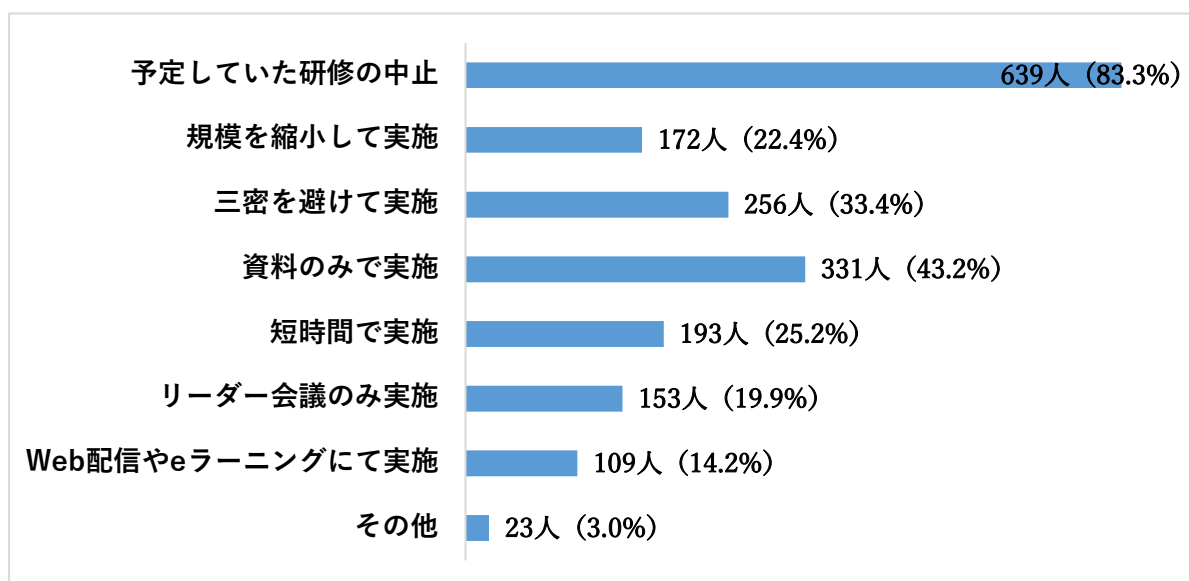


図5 以前に比べての職場研修への影響(複数回答)

表7 その他の回答例

以前に比べて職場内研修への影響（記入例一覧）	
研修の中止や縮小	体験型研修(例えばA E D研修やポジショニング研修など)の実施が困難
	新採用職員の研修は例年に比べ大きく縮小した
	資料を読み小テストの実施
	職員の学習意欲の低下。研修内容の周知徹底の不足
従来通り 実施する工夫	2メートル以上離れて実施
	今まで通り実施している。全員マスク着用
	全てを在宅と特養部門に分けて研修している
オンラインの検討	在宅勤務にあたり WEB 会議などの研究をした
	今後は WEB 会議に切り替えていく予定。
	オンライン研修を予定中
	ZOOM や LINE を使用
人材育成の 新たな問題	連携できないことによる人材育成への影響が起こっている
	法人指示で全ての会議が中止、ミーティングも縮小のため情報伝達は大量の書面となり、全てを読まずに業務についている職員が多く見受けられる

9) Q5 運営する認知症カフェへの影響について

(n=351)

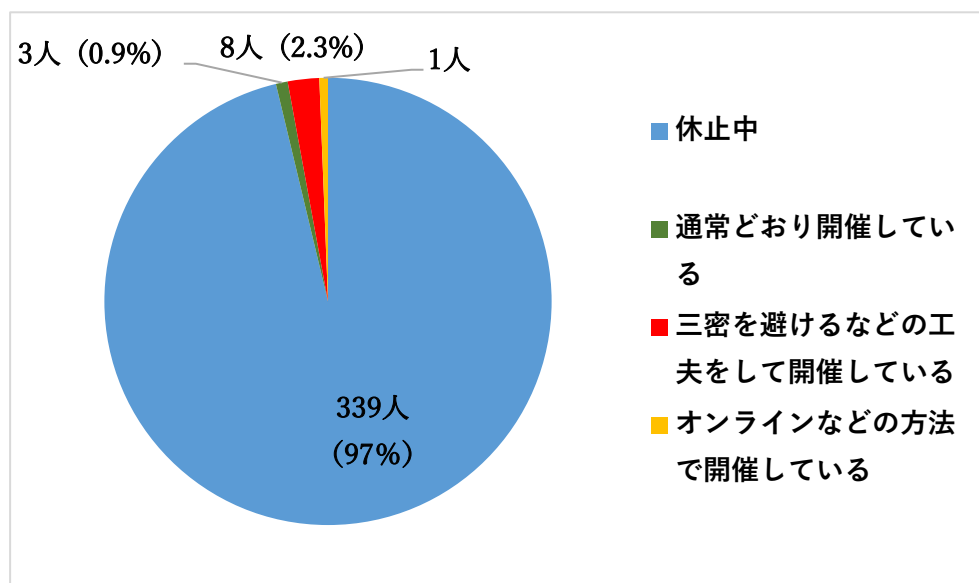


図 6 運営する認知症カフェへの影響について

表 8 休止の時期について

休止の時期	件数
昨年 12 月	1 件
2020 年 1 月頃から	1 件
2 月頃から	16 件
3 月頃から	44 件
4 月頃から	18 件
その他：緊急事態宣言後から、市中発生以後、5 月から など	

表9 その他の回答例

カフェの運営の具体的な方法（記入例一覧）	
情報提供の工夫	介護相談が必要であれば連絡先を周知している
	ホームページや定期情報誌で近況を伝えている
	地域のサロンがなくなり、集まる場所がなくなった人たちに居場所を提供
	電話等の相談のみ受け付けている
	開催中止 ただし、毎月チラシ配布と安否確認には伺っている
	市役所からの通達と自粛要請を受けて中止にした。暫くの間中止。その代わりに、自宅出来る体操や介護予防のお話などのパンフレットを送付した
	随時、ホームページ掲載やチラシ、電話などで周知を図る
	居宅、包括から参加者へ連絡をして、中止のお知らせや近況などの聞き取りをしている。
オンラインの活用	zoom 使用可能だが、参加家族が対応できず
	LINE で話す場を設けたりしている
	zoom での多職種カフェ
行政や他団体との連携	開催開始も無理せずに、小学校、地域民生委員、老人クラブ、地域の育成会の会長さんとカフェについて話し合いを始めたばかりである
	町と連携し、町内のサロン活動と足並みを揃えている
消極的な開催	若年性認知症の活動の場でもあるので通常通りにやって入るが看板は出さず、消極的営業にしているため外部のお客はいない
	併設のケアハウスや通所利用者のみの参加
	看板やチラシの配布などは行わず、また、団体での入場のお断りや、検温、消毒などの実施
今後の予定	国の動向をみて開始
	今後の状況を見ながら再開予定
	6月から開催予定としているが、人数の制限やマスク着用、種子消毒用のアルコールの準備や座席などの配置、換気の対策などを行い、実施する予定

10) Q6 認知症サポーター養成講座などへの影響について

(n=397)

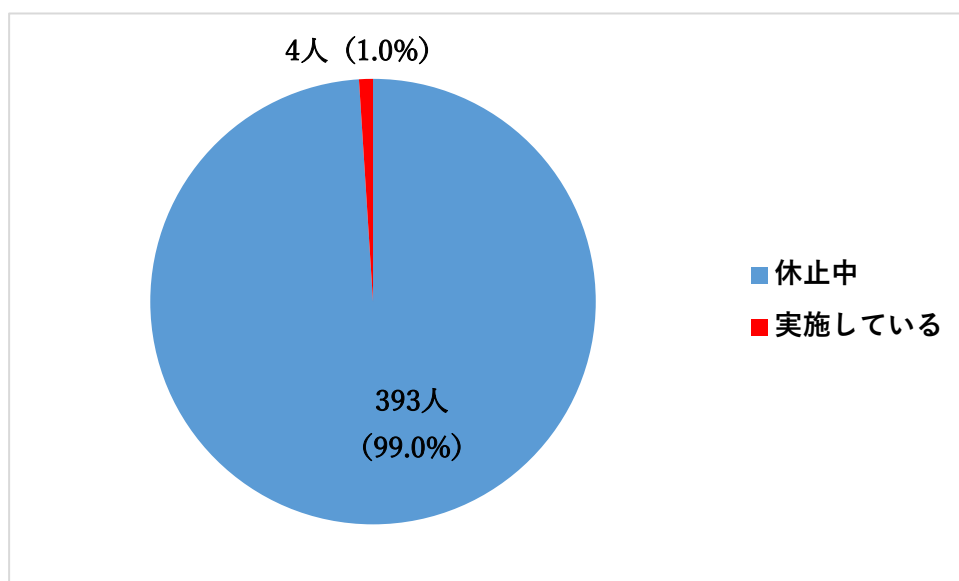


図7 認知症サポーター養成講座などについて

表10 休止の時期について

休止の時期	件数
2020年2月頃から	22件
3月頃から	29件
4月頃から	27件
その他：コロナ発生時より、緊急事態宣言が出てから、具体的な運営について行政より連絡待ち など	

11)Q7 認知症に関する地域活動への支障について

(n=767)

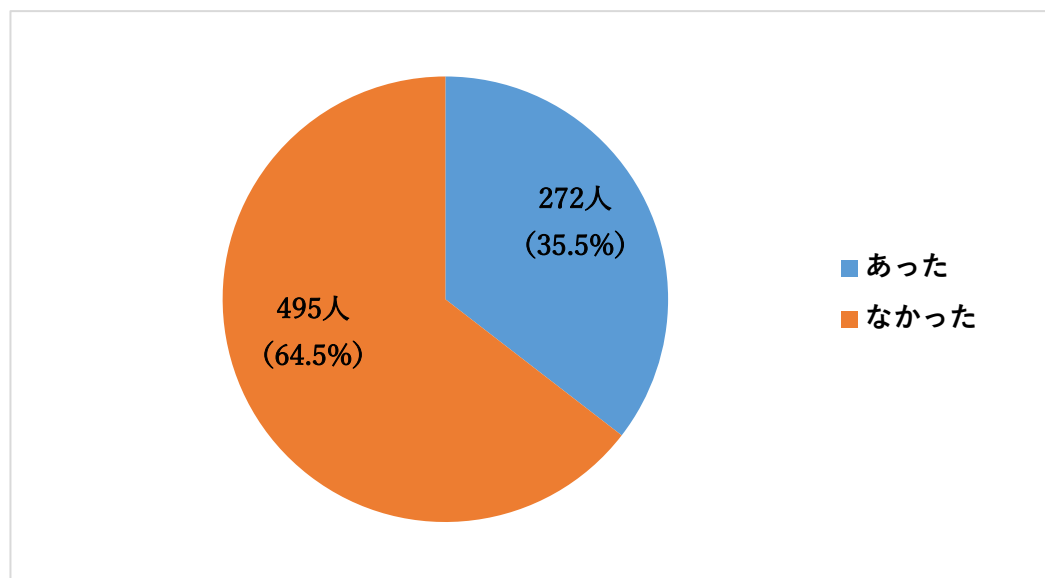


図8 その他の認知症に関する地域活動(見守り訓練、RUN 伴、啓発活動など)への支障

表 11 その他の回答例

具体的な事業名と具体的な影響（記入例一覧）	
有志によるイベント	RUN 伴の中止
	オレンジカップ（認知症の方と共に行うフットサル）中止
	地域高齢者を対象にした体操教室を休止中
	運動教室の中止
	注文をときどき間違える料理店を延期
	地域の有志による認知症の啓発イベントが打ち合わせも含めて延期している
地域住民向けイベント	地域フェスタの中止
	市民向け講演会の中止
	認知症市民フォーラムの中止
	地域の「認知症なんでも相談処」計画の保留
	法人で行っている介護者教室や地域の老人会での認知症勉強会が中止となった
	市民劇場を借りての啓蒙活動を中止している
	図書館での、地域住民を対象とした認知症講座
	毎年開催される「ふれあい福祉交流会」が中止になった
	地域が年1回春ごろに開催している「認知症を知る講演会」が中止・延期となった
	地域行事の中止で啓発活動ができなくなった。啓発の為に集まっていた有志の会が

	活動できなくなった
認知症サポーター 養成関連	サポーター養成講座中止
	認知症サポーター同士の交流、活動支援
	年3回のステップアップ講座やキッズ認サポの中止
	行政主催の認知症キャラバンメイトフォローアップ研修が中止や延期
	キャラバンメイト連絡会の中止、オレンジチーム実行委員会の中止・延期
家族会など	認知症と家族の会の休止、精神的なケアの不足
	男性介護者の会中止
	4月より家族会の開催を休止中
	家族の会の会議も中止
	認知症の当事者さん、家族さんの会議が中止
見守り訓練等の 地域活動	見守り訓練、検討会議の延期
	見守り活動や委員会などを中止した
	地域見守り清掃活動（中止）、ホームレス支援（利用者は参加なし、職員数人で継続）
	認知症声かけ訓練
	見守り訓練の実施について地域の関係機関の代表者と勉強会を開催した。この4月から徘徊模擬訓練や、啓発活動を行っていく予定でもあった。影響は大きいと思う。
	地域の認知症見守り団体の啓発活動の休止
	見守り協力員が選出できない
	徘徊模擬訓練の中止。
	カフェ事業を見守り事業へ切り替え対応した
地域住民向け 研修会など	夏祭りや認知症の勉強会等の地域での行事、また、施設に来ていただく健康体操や趣味の教室等今現在全て中止としているため地域との交流が無くなっている
	近隣自治会との懇談会の中止
	地域の方と一緒にボランティア活動
	認知症予防教室など全て中止している～MCIの周知がしにくい
	介護予防教室中止（延期）
	予定していた五回の啓発の研修会が延期、中止になった
	地元のケア倶楽部の休止、地元住民対象の研修会の中止など
	地域サロンで認知症の話を依頼して下さっていたが、無期限延期になっている
	地域住民向けの研修が中止しているため、地域への活動もない
	代替えの活動は実施しているが、予定されていたサロンのお祭り等は延期
専門職向け 研修など	実践者研修・実践リーダー研修の中止
	実務者研修講義を断った
	ファーストステップ研修などすべて中止・延期となっている
	認知症介護基礎・実践者研修・リーダー研修の中止と延期による、年間の職員教育計画の混乱や、職員1人ひとりの意欲の低下

	認知症介護指導者会や介護福祉士会等の、会議や定例会への参加見合わせによる、情報交換や連携の不足
	地域その他職種研修及び意見交換会は全て中止
	ケアマネジャー向けの研修会が中止
	圏域内グループホームの勉強会を延期
	基礎研修、実践研修、管理者研修、認知症ケアケア交流講座など
自治体事業など	自治体の認知症対策委員会、生活支援体制整備研究会、小規模多機能型事業所連絡会、GH 連絡会、介護支援専門員連絡会、3 町村支部ケアマネ連絡会、合同事例検討会（居宅特定加算取得のための複数事業所による連絡会）、地区医師会・3 町村支部・在宅医療介護連携医推進委員会、認知症指導者の会、これらの会すべて中止、延期となり 3 月より開催されていない、6 月以降の開催の目処が立っていない
	圏域内専門職連携ネットワーク、・圏域内リーダー研修修了ネットワークが中止
	若年性認知症支援に協力しているが中止となっている
	地域包括支援センターとの交流もしていない。
	運営推進会議。書面でのやり取りを行っており、会議開催には至っていない
	認知症等高齢者支援地域連携事業が中止
	施策会議が中止
	閉じこもりサービス拒否のある利用者様宅への訪問ができず電話のみの対応となった
	日本認知症ケア学会の基調講演や事例検討会を中止した

12) Q8 貴施設事業所の運営法人内で利用者またはスタッフの新型コロナウイルス
感染事例について

(n=767)

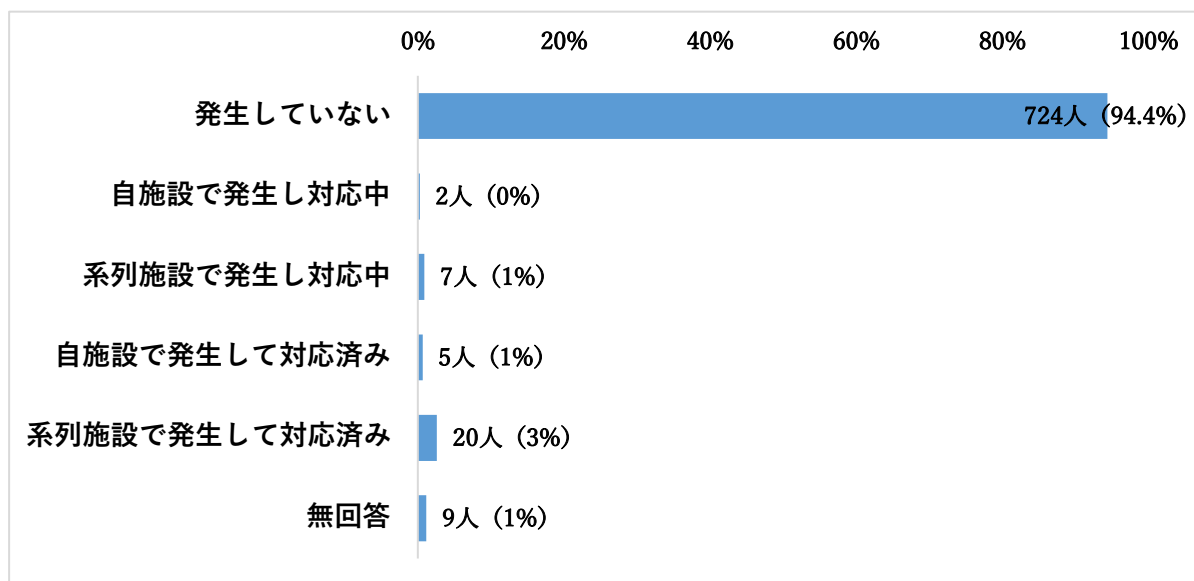


図9 貴施設事業所の運営法人内で利用者またはスタッフの新型コロナ感染事例について